

2013.5.30(木) 報告資料



山形県内における母子避難者の現状と、
その先にあるもの

山形避難者母の会、村山地区ふくしま子ども未来ひろば
うつくしま避難母子連絡協議会 代表
中村 美紀



yamagata displaced mothers' network

山形避難者
母の会

プロフィール



中村美紀(なかむら みき)

山形避難者母の会 代表
うつくしま避難母子連絡協議会 代表
村山地区ふくしま子ども未来ひろば 代表

福島県福島市生まれ。2011年8月に福島県郡山市より、山形県山形市へ自主避難。10歳、5歳、3歳の3姉妹の母。2011年9月に、福島県議が山形市避難者交流支援センター訪問の際、有志と「山形自主避難母の会」を立ち上げ、要望書を提出。それがきっかけで、福島県からの助成を受け、母子避難・自主避難者のための交流施設を立ち上げる。

栄養士、ジュニア野菜ソムリエでもあり、原発事故後「放射能と食」をテーマに地元郡山市にて毎月料理教室を開催中。

山形県内の避難者の現状

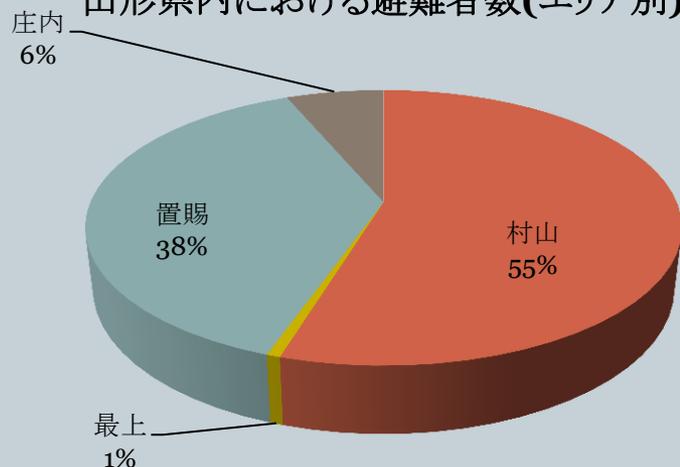
福島県内からの避難者数

(2013.4.18現在・山形県HPより抜粋)

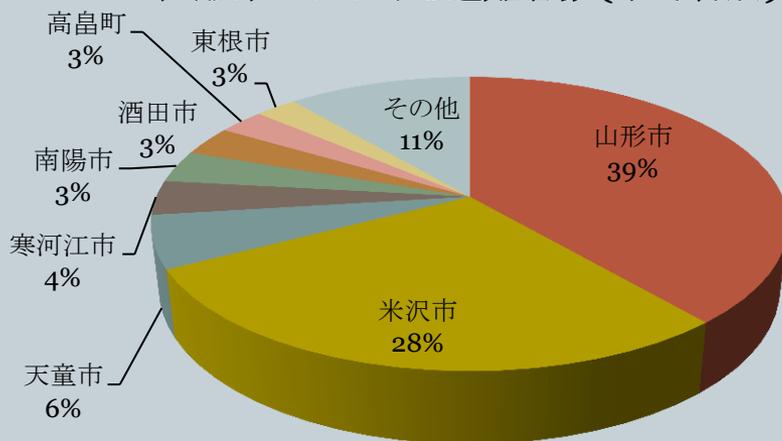
山形県内の避難者数 9,477名

うち、福島県内 8,933名(94.3%)

山形県内における避難者数(エリア別)



山形県内における避難者数(市町村別)



■ 特徴

・村山地区、置賜地区に集中。特に、山形市には3,464名、米沢市には2,541名の避難者が生活しており、この2市で全体の約7割を占める。

・山形市、米沢市、南陽市、高島町については平成23年10月31日で受入を中止している。その他の市町村については、平成24年12月28日で受入を中止。

・米沢市は福島市より車で約40分ほど。通勤圏内であり、家族で避難している人も多い。雇用促進住宅があり、避難者はそのエリアに集中。

・山形市は、高速を利用して福島市まで1時間半。民間借上げのアパートに暮らす母子避難者が多い。

属性に合わせた具体的支援

戻りたい

いつかは戻りたいけど、
今は戻りたくない

↓
母子交流サロン、
雇用と託児支援等

戻りたいけど、戻れない

↓
町単位の住民組織の立ち上げ、
避難元自治体とのつなぎ等

戻れる

会津

県南

県北・県中・
いわき・
相双の一部

避難指示解除
準備区域

居住制限区域

帰宅困難地域

戻れない

戻れるけど、戻りたくない

↓
雇用・営業再開、
避難先地域へのつなぎ等

戻れないし、戻りたくない

↓
雇用・営業再開
避難先地域へのつなぎ等

資料提供：社団法人中越防災安全推進機構
復興デザインセンター長
新潟県避難者支援連絡会議 事務局
稲垣文彦氏 提供

戻りたくない

避難後の活動と、今後の課題

村山地区「ふくしま子ども未来ひろば」



- 福島県からの助成を受け、山形市・JR山形駅側に2012年5月にオープン。
- 福島からの避難母子が集う「子育てサロン」、教育・子どものメンタルケアの一環とした「スクール事業」、母親のリフレッシュや用事がある場合のサポートとして「一時預かり」の3つの柱で構成。
- スタッフは全て福島からの避難者であり、保育士などの有資格者。子どもがいても働ける環境を作っている。
- 開所時間は平日9:30~14:30まで。土日祝祭日休み。
- 一時預かり...100円/30分、ピアノなどのスクールは500円/人と安価に設定。

季節のイベント

(夏祭り、ハロウィーン、芋煮会など)



芋煮教室(11月)



夏祭り(7月)



ハロウィーンパーティ(10月)

よぞらの会

(「足るを知る」キャンドルナイト 各種ワークショップとワーキングマザーのための交流会)



chiku × chiku café と mamaガーデン

(資格・特技を持った母親たちの就労の場の提供)



ママチャレショップ隊という避難ママたちのグループによる、チャレンジショップを毎月開催。
2013.3.11には、イオン山形南店で「ありがとうやまがたproject3.11」というイベントで、地元の方への感謝の気持ちを込めたワンコインワークショップを開催。

キッズスクール

(ぴあのピアノ、ぷちスタディ、ヒップホップダンス、スイミングの
500円ワンコインレッスン。発表会も開催した。)



広報誌「Ahaha(あはは)」

・ワーキングマザーなど、交流会へ参加できない避難者へ情報を届ける。「ひとりの母」「あははと笑う」の2つの意味。



友達に教えてあげよう！ 山形市内幼稚園サポート情報

今回は、先日から募集が開始された山形市内の幼稚園についてお知らせします。各幼稚園によって入園料の扱いが異なっております。ぜひご確認ください。

幼稚園名	入園料免除	保育園料減額・免除	備考
大谷幼稚園	県の補助が決まった時点で入園料保育料の一部		
松浪大谷幼稚園	県の補助	県の補助が決まった時点で入園料保育料の一部	
泉原幼稚園	なし	なし	9/13時点3年保育交付終了 2年保育交付中
金井幼稚園	あり(24年度)	あり(24年度、5,000円減額)	7/13時点 2年保育交付終了 3年保育交付終了 2年保育交付中
金井第二幼稚園	?	あり(24年度、5,000円減額)	24年度の交付入れも存在しているが、まだはさびた金額は出ていない。
風まわぐみ幼稚園	なし	なし	
南山形幼稚園	あり	なし	
べにばな幼稚園	あり	なし	
出羽大谷幼稚園	県の補助	県の補助が決まった時点で入園料保育料の一部	
あおぞら幼稚園	なし	なし	
諏訪幼稚園	あり	なし	
竹田幼稚園	なし	あり(金額は実際に入園後決定)	なかなか園の方からは書類がどうも届きづらいので、教えるだけではない。
南光幼稚園	なし	なし	
月かげ幼稚園	あり	あり	定員に達した。
千歳幼稚園	幼(入園料・手教科)	なし	
岩瀬学園大宮附属 駒川幼稚園	なし	なし	
岩瀬学園大宮附属 駒川第二幼稚園	なし	なし	
さゆり幼稚園	なし	なし	
山形聖マリア幼稚園	幼(入園料・手教科 保育費等)	なし	
さくらんぼ幼稚園	なし	なし	
かまわり幼稚園	なし	なし	
竹田西幼稚園	なし	あり(金額は実際に入園後決定)	
基助幼稚園	あり	なし	
東北文科大学附属幼稚園	なし	なし	
南沼原かまわり幼稚園	なし	なし	

- ・入園料免除、保育料減額にあたって、罹災証明、被災証明が必要な園があります。
- ・9月から順番受け付けが始まり11月には確定となるので、早めに受け付けないと空きがない状態になります。(特に3年保育はすでに交付終了になっている園もあります。)

- ・園によっては避難しているかどうか連絡は聞けないので、本人から教えていただけたら助かるそうです。
- ・今期、入園料・保育料と免除・減額がない園では、私立幼稚園園費補助金を漏れがないようにお知らせしていくことでした。減額してしまうと補助金の戻りも減ってしまうので、大分差が出るみたいですよ。避難されている方は戻りも大きいようです。

- ・私立幼稚園園費補助金、25年度、26年度まで山形でもそれぞれの市町村でもそれぞれでも選んで申請できます。ただ、市・町・村で補助金の設定が違うので、山形とご自身の市町村の戻りの金額で調べてから多く戻る方に申請してください。罹災証明または被災証明が必要になります。無い場合は保険証・免許証(福島県の住所がわかるもの)を提出となります。

Ahahaからのお知らせ

■ママのためのお話し会 with子ども支援フェイスブックプロジェクト vol.3

福島から避難してきたお母さんたちと一緒に話しませんか？
お話を食べながらゆったりと、学びや意見交換、悩みを共有する企画です。お申込み・お問い合わせは下記までご連絡ください。
日時：10月4日(木)11:00～14:00(お昼あり) 場所：村山地区 ふくしま子ども未来ひろば 参加費：500円
皆さんの「知りたいこと」「相談したいこと」「お悩み」を教えてください。

A・hahaではお母さんたちの「知りたい・聞きたい」を、情報発信していることや話したいお話しをできる場所です。皆さんの悩みをみんなで解決しましょう。下記メールアドレスまでお送りください。

■Ahaha Vol.2は、10月下旬発行です。

(内容)市町村毎の現状(福島市)・甲狀腺検査、ホルモントピック、汚染マップについて

コンタクト

うつくしま避難母子連絡協議会 HP <http://yamagatahinanahaha.jimdo.com/>

主体団体・山形避難者母の会 事務局・村山地区ふくしま子ども未来ひろば内(山形市香澄町2-8-12F)

ご連絡先 070-5473-4262(代表・中村) yamagatahinanahaha@gmail.com

うつくしま避難母子連絡協議会情報誌Ahahaは、平成24年度福島県地域づくり総合支援事業の助成を受けて発行しています。J

A・haha

アハハ

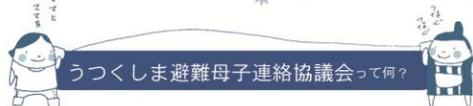


うつくしま避難母子連絡協議会情報誌 Vol.1

「A・haha」とは「あはは」という笑い声と、「母(ひとりの母)」の2つの意味を持つ造語です。お母さん一人ひとりに笑顔になってもらえるように、さまざまな情報を共有していきます。

ごあいさつ

A・haha。ひとりの母として、子どもに向き合い、考えてきた自分。そして震災から1年半で出た答えは、どこにいてもどんな状況でも大切なあの子たちと一緒に、「あはは」と笑うことだと思います。子どもは大人が思うよりも親しい。ママの笑顔は子どもが一番の褒め言葉です。より複雑化した放射能汚染との戦いに疲れたママに、子どもと一緒に「たさん笑ってほしい。その問題に真一直ぐ向き合うための、ママのための情報誌として生まれました。」



うつくしま避難母子連絡協議会って何?

福島県から山形県へ母子避難してきたお母さんたちの避難生活が少しよくなるように、「私の周りどのくらい福島のお母さんや子どもたちがいるんだろう?」という生活を範囲で明確にし、母子避難者が自発的にみんなで助け合いシステムを作っていくことができます。例えば、自分の子どもと同じ学校に通うお母さんたちと繋がるとして、子どもでなくお母さんが感染症等で休み出られなくなった際「今日の夕食を買ってきてもらえないか?」と誰かにSOSすることができます。山形市立南沼原小学校の母子避難のお母さんが中心になって作る「ビーチフェイス」という20人ほどのグループが、緊急連絡網を自分たちで作成、たぐのイベント等を行っています。様々な学校が茶話会などを開催しており、この良い事例を広く、さらにサポートしていくのがこの「うつくしま避難母子連絡協議会」です。



我が家には大きい子どもしかいないんだけど...

今までは、ふくしま子ども未来ひろばの予備でサロンや一時預かりサービス等、乳児・乳幼児へ承継児童中心のサポートがほとんどでした。幼稚園・小・中・高校生の子ども様を持つお母さんへのサポートを始めたのがこの連絡協議会です。学校単位でまずは繋がりを持た、避難生活の中での「助け合いの場」を作ること。そして、働いていられないお母さんを「情報へのサポート」を行うことを目的としています。

今後の予定として毎月、避難ママ自身が広報誌「Ahaha」を作成、メールアドレスも利用し、「子どもさんの年齢、お母さんのライフスタイル」に合わせた情報支援を行います。

働いていたり、お子様の部活や習い事で忙しい、交流会に参加する暇がない、というお母さんも大丈夫。繋がりたいと少しでも繋がれるよう、連絡協議会がサポート致します。

ひとときコラム

「A・haha」って?

「A・haha」とは、「あはは」という笑い声と、英語の「a hahaha」を用いた「母(ひとりの母)」の2つの意味を持つ造語です。この情報誌がお母さんたち一人ひとりの「あはは」をつづけるきっかけになればと思っています。



今後の課題と、必要な支援

福島へ戻った避難者への支援

- 保養・リフレッシュキャンプに関する、細かな情報支援
- 放射能について話せる場づくり
- 避難者と元避難者のための交流支援

福島へ帰る避難者のための支援

- 帰るための情報と、要望のとりまとめ
- 福島へ戻った元避難者との交流
- 福島にいる人たちとの意見交換
- 母子避難者交流施設での情報発信

山形へ定住する避難者への支援

- 就労支援・・・”自活”支援
- 孤立化防止のための交流支援
- 地元住民との地域交流に関する支援
- 子どもの預け先、教育環境の整備

女性にとって、「共感してもらえる環境」が最も重要。「対話の場づくり」が必須。また、交流を望まない方、交流したくてもできない環境にある方のために、情報を送り続けることも必要である。材料をいろいろ用意しておく→選択肢を増やす